

千葉女子高校 制服の変遷

1900年（明治33年）千葉県高等女学校

1905年（明治38年）

- ・ 2本の白線が縫い付けられたエビ茶の袴
- ・ 市内にあった私立女学校と一線を画すために2本の白線

袴に二本の白線が縫いつけてあります。

「白」は純潔、二本の線は「学業」と「健康」の象徴でした。



1928年（昭和3年）セーラー型制服

- ・ 昭和3年5月制定
- ・ セーラー服の上着と裾に2本の白線の制服は、千葉高女の制服として広く知られており、大変親しまれていたそうです。
- ・ 本校卒業生 家庭科 藤本先生の談
「生徒は制服に誇りを持っていました。もちろん私も。」
「街を歩いているだけでも、きちっと姿勢もよく、穏やかで上品な雰囲気を持っていて、ちょっと見ただけで、ああ、あの人は千葉高女の生徒だとわかったわ。」

1932年（昭和7年）校章が制定

昭和7年に制定された胸に校章の入ったセーラー型の制服です。
清楚な初々しさに溢れています



1941年～1945年（昭和16年～昭和20年）

- ・戦局の悪化に伴い、制服は自然消滅。
- ・防空演習が頻繁に行われた戦時下では、制服もモンペ姿にかわり、勤労働員に通う姿が見られたそうです。
- ・戦後になっても、しばらくの間はまちまちの服装をしていました。

1948年（昭和23年）校名を 千葉県立千葉女子高等学校 と改称

1950年（昭和25年）校名を 千葉県立千葉第二高等学校 と改称

- ・昭和25年、1年生から「制服が欲しい」との声があがりました。
- ・評議会で取り上げたところ、多くの賛成を得たため、社会委員会に委託し、生徒から型を募集することになりました。
- ・まず、被服科（家政科）の職員が制作した夏のブラウスが、生徒の投票によって決定しました。
- ・夏はタック二本のブラウスに箱ひだのスカートで、春と秋は、その上にチョッキを着

る、冬は、黒か紺のボックス（前に1センチ巾のタックがある）を着るというものになりました。

1952年（昭和27年）

- ・昭和27年（1952年）に現行制服の案が決まりました。（経緯）
- ・セーラー服がよい、という意見も案外多かったようですが、先生が生徒をつれて関西旅行に行った時、セーラーを着ていた本校生徒を見たその土地の人に、「向こうから中学生が来た」と言われてしまいました。それで、セーラーは中学生の服ということになり、取り消されました。
- ・そのまま制服のことはあやふやになってしまったそうです。
- ・家庭科の先生方が、小松川高校や竹早高校の制服を参考に、扇谷デパートの全面協力により制服を試作しました。
- ・高校生には背広が良いということになり、色も統一して「明色紺サージ」となりました。これが現在の、通称「千葉女子ブルー」です。
- ・冬期制服として背広・車ひだスカート現在の制服が採用されました。
- ・襟にはネクタイではなく、リボンがつけられています。

※参考

昭和27年10月10日発行「ソフィーヤ」第19号（生徒会誌）

問題の制服遂に決定
セーラーカラーの背広

生徒会創立以来既に四年有半を
迎えた今日、我々の生徒会に向け
る日は日ごと発展していく。随だ
らぬ中で特に制服問題は我々にと
つて、最も身近な問題である。け
に、四年間折あるごとに評議会
職員会議に提出され、今から二年紀
一正制服としてものが決つた。
それはやはりタック二本のブラウス
に車ひだのスカートで秋はその上
にチヨッキを着る事も同じである
冬は別が紺のボタックス（前に一セ
ンチ巾のタックがある）を着ると
十世の人がその生徒をどう向うか
という事にと二年前から今迄の制服
で来た。そして生徒は春夏秋冬の制
服は皆替えている。随であつたが冬の
生のは何となくいつまでたつてもア
ラ制服の事はいつまでたつてもア
セフヤになつて来た。
そこで被服科の先生方がこれでは
は困るので方々の学校の冬服を
たりしてお母折の結果また本校生
徒の調査にもより冬の上着は背広
という事になつた。またスカート
も同様に車ひだスカートと
なつた。上着の背広は紺のボタックス
ボタックスが二ツついで
いる。これはあまり普通の背広と違
つていないので卒業生も生しやす
いので大衆的、ようである。新調す
る場合はみんながその制服にする
ようにして卒業生がそのつたら
大衆的であらう。

千葉図・委・連・会長
に二年楠原さん
去る九月十四日本校開校五
十周年記念行事として千葉女子校同窓会役員協議

「問題の制服遂に決定 テラーカラーの背広」

生徒会設立以来既に四年有余を迎へた今日、我々の生徒会に向ける目は一日一日と発展してく様だ。

この中で特に制服問題は我々にとって、最も身近な問題であるだけに、ここ四年間折あるごとに評議会、職員会議に提出され、今から二年前、一応制服としてのが決まった。それは、夏はタック二本のブラウスに箱ひだのスカートで、秋は、その上にチョッキを着る。春も同じである。冬は、黒か紺のボックス（前に1センチ巾のタックがある）を着るということに二年前から今までの制服でした。【原文ママ】

そこで生徒は春夏秋冬の制服は皆着ている様であったが、冬のボックスはきにいらないと見えて、あまり着用していない様子である。そして下にみんなセーラーを着ていて、セーラーが良いなどという意見も、この前の世論調査の時に案外多かった様である。

しかし、先生が生徒をつれて関西旅行へ行った時、セーラーを着ていた人がいく人かいたら、その土地の人がその生徒を見て、向かうから中学生が来たと言ったと言っていたそうなので、セーラーは中学生の服という事になって、取消された制服の事はいつまでたってもアヤフヤになっていた。

そこで被服科の先生方がこれでは困るので、方々の学校のをきて来てたりして、お骨折りの結果、また全校生徒の調査にもより、冬の上着は背広ということになった。また、スカートも同様にして車ひだスカートとなった。上着の背広はふた着きのポケットで、前ボタンが二ツついている。

これはあまり普通の背広と変っていないので、卒業後再生しやすいので大変いいようである。新調する場合はみんながその制服にするようにして、全校生徒がそろったら大変良いであろう。

1953年（昭和28年）現在の制服着用開始

- ・明るい色の制服は評判がよく、その後他校で多く取り入れられました。
- ・仕立てがよく質の高い現行制服は、昭和28年（1953年）から、69年間愛用されることとなります。

1955年（昭和30年）盛夏服の制定

- ・夏の暑さが厳しいことをきっかけとして、盛夏服が制定されました。
- ・従来、夏はブラウスにネクタイを着用することになっていましたが、半袖の開襟ブラウスを着用してもよいことになりました。
- ・この型も家政科を中心に制定しました。

1961年（昭和36年）4月 校名を 千葉県立千葉女子高等学校 と改称

2018年（平成30年）制服のマイナーチェンジ

- ・ジャケットとベストのシルエット見直しました。
- ・ブラウスには台衿を付け、しっかりさせました。
- ・ネクタイの生地をリニューアルしました。



2022年（令和4年）制服のモデルチェンジ 新制服誕生！

【おわりに】

本校創立100年誌の卒業生の言葉（高校25回卒業生）を紹介します。

「私の千葉女子高との出会いは制服です。

小学校の途中で、学校から15分ほどの場所に引っ越してきました。そして、制服を着た千葉女子の生徒を目にするようになりました。

普通の紺色とはちょっと違った変った色で、ネクタイも渋い色が3色あって、子供心にもとても素敵な制服に思えました。ですから、千葉女子に合格して、あの制服を作りに行くのだというときには、嬉しくて心が弾みました。」

この卒業生の言葉からもわかるように、どの時代も、千葉女子の制服に誰もが誇りを持っていました。仕立てがよくて、質の高い現行制服は、昭和28年（1953年）から、ブラウスやネクタイ、シルエットのマイナーチェンジを経て、今年度で69年目となりました。

令和4年度入学生、新1年生の制服は70年目の改定となります。

このたび、新制服を考えるにあたっては、他校にはない、新しいデザインにしたいという気持ちが強くありました。新制服を着用する新入生も、知性と品格を兼ね備えた本校生徒の雰囲気、そのまま継承して欲しいと思っています。

【参考資料】

「創立70周年記念誌」「創立80周年記念誌」「創立90周年記念誌」

「創立100周年記念誌」